

きんもくせい

平成28年 学校教育だより

September 9 第330号

(年4回発行)

編集・きんもくせい編集委員会
発行・埼玉県富士見市教育委員会
電話・049-251-2711 (内線622)

編集目標 人間尊重の教育を求めて



全校遠足～たてわりグループ遊び～

写真提供／水谷小学校

「ぼくの学校」

富士見特別支援学校高等部三年

曾田 利幸

ぼくは、学校にいきます。

朝の運動、走ります。

音楽は、豊年太鼓をたたきます。

プールが楽しいです。

農園芸班は、なすをつくります。

給食がおいしいです。

休み時間、友だちと先生と話します。

修学旅行が、楽しみです。

ホッキョクグマを見たいです。

ぼくは、学校が好きです。

友だちがいるからです。

共に学び、共に知る社会の学習

社会科の学習は「暗記科目」というイメージをもたれることがあります。確かに知識として覚えなくてはいけない部分もありません。しかし、それに偏ってしまつては生徒たちの考える活動が少なくなり、教科としての魅力が減ってしまいます。

「水」という地名が付く地域があるのはなぜだろう。「日本に米軍基地があるのはなぜだろう。」社会科の学習は私たちの生活の身近なところから始まり、それが何かしらの形で日本や世界とのつながりを持つことを学びます。つまり、すべてのことが私たちの生活と密接な関係があることを学ぶのです。身近にある事柄と様々な事柄との関連を意識させ、そこに疑問や問題を提起し、資料等を参考に考え、理解していくところに社会科の学習の楽しさがあると考えます。

ここでは生徒たちがいかに興味をもち、共に考え、知る喜びを実践できたか、私の三年間の実践を紹介いたします。

興味をもたせる資料提示

社会科の学習で、資料は授業の心臓部だと考えています。「何を」、「どこで」、「どんな風に」の三点を大切にしています。例えば、縄文時代の学習をした時には、あえて何も言わずに土器のレプリカを見せ、「これで何をするとと思う？」と問いかけながら、実際に生徒に手に取らせました。すると、生徒は周りの生徒と「この中に肉とか入れて焼くんだよ。」と話したり、中には「漬物を作るんじゃないの？」といったユニークな発想をして

西中学校 教諭 大谷 文人

知る社会の学習

共に学び、共に

わかる授業 = 中学校社会 =

は「一九八〇年代後半から一気にどちらも価格が急激に上昇している。なんでだろう?」、「バブルという時代があったと親が言っていたけど、それがまさにこの時代なんじゃないか」など様々な意見が飛び交っていました。答えを導き出すのも大切ですが、この活動では自分の意見を相手に伝えることを大切にしようと生徒に伝えていきます。一年生の時には正解ばかり求めていましたが、三年生になると自分の思ったことを素直に表現できる生徒が多くなり、学習が主

自分流のノートの作成

私の授業ではプリントを使用し、生徒には常々「穴埋めだけではなく、自分流のノートを作りなさい」と指導しています。初めはうまくまとめられない生徒もいました。体的になってきました。さらに、この活動は学習指導要領の目標にある「諸資料に基づいて多面的・多角的に考察することや、さらには言語活動の充実」にもつながっています。

特別支援教育

「きこえとことばの教室」

諏訪小学校 教諭 石川 良枝

富士見市の「きこえとことばの教室」が諏訪小学校に開設されて今年で四年目となりました。ここは通常学級に在籍している「難聴・言語障害・吃音」のある児童のための教室です。これまでに六十名程の仲間がここで学び、三十七名が巣立っていきました。通級指導教室での時間は通級する子どもにとって必要かつ特別な、オーダーメイドの

も行っています。それぞれの学習を通し、ありのままの自分を認め、自信を深められるように指導を組み立てています。《聞こえや言葉》の悩みを抱え、解決の糸口を求めてこの教室の扉をたたいた仲間が、「ここで学んで良かった」と、笑顔で退室していきます。二丁の高まりに添えて、十月から富士見市で二丁目の「きこえとことばの教室」がふじみ野小学校に開室します。最初は何も、指導の必要も含まれて相談をお受けしています。安心して、この教室をご活用ください。

勝瀬小学校 6年 刈谷 紀那
勝瀬小の裏には、たくさんの野菜を作っている学校ファームがあります。私達自然体験クラブの活動の一つに野菜作りがあり、学校ファームを利用しています。月～金で当番を決め、水やりをし、育った野菜を収穫します。今年、スイカ、枝豆、トウモロコシ、トマト、ズッキーニ、

色々な野菜を作っています
ピーナツを作りました。冬には、白菜、大根、ブロッコリー、また春には、小松菜、カブを作る予定です。せっかく作った野菜を鳥に食べられたり、野菜に虫がいたり、野菜作りの苦勞を学びました。一生懸命育てた野菜なので、嫌いな野菜も食べられるようになりました。これからはがんばりたいです。



共に考え、問題を解決

膨大な知識を学ぶことが必要な社会科では、教師が一方的に話をし、生徒がノートをとるような講義的な学習になつてしまいがちです。現在、アクティブラーニングがよく話題となつていますが、私も、生徒同士で資料を読み取ったり、問題を解決するために話し合ったりする活動を毎時間必ず入れるようにしています。写真①の様子は一九八〇年頃の株価と地価の変動を表したグラフから、どのよ



写真①

その生徒には、工夫をこらしている他の生徒のノートを紹介したり、アドバイスをしたりしてました。その結果、今では、私の説明をかみ砕いて、自分なりにわかりやすい言葉に置き換えたり、色つきのイラストを入れたり、中には語呂合わせを自分で作ったりしている生徒もいます。ノート作りを工夫してきたことで、学習への意欲と理解も以前より高まってきたと感じます。

期が早まっています。そのため中学生も今まで以上に世の中のことに目を向けていく必要があると考えています。しかし、学習する責任感や義務感ばかりを押し付けてしまうと「学ぶ楽しさ」という学習の本来の姿を奪ってしまいます。選挙を例にとつても、知識として学び、学んだことを実際に使つて、実行していくことで、社会の一員として貢献できる喜びを実感できます。

指導・講師 西中学校 校長 天野 豪雄

大谷教諭はわかる授業を展開するため三つの視点から授業の工夫・改善に取り組んでいる。ともすれば社会科は暗記教科として捉えられがちだが、資料提示の工夫、主体的・協働的な学習の導入、ノートの取り方等で生徒の興味・関心を高め、社会科好きの生徒を育成しようとして努力している。今後、自らの実践を幅広く公開し、客観的に考察・検証して、更に充実した授業を展開することを期待している。

学ぶ楽しさを忘れずに

十八歳から選挙に参加できるなど、生徒が社会の中で責任をもたなければならない時



子ども親も「感動！」で成長する

南畑小学校 保護者 清水 武夫

皆さんは子育ての楽しさをどんなときに感じますか。私は、子どもの成長を実感できたときであると思っています。

最近、我が家の息子たち（小六と小二）が熱中しているスポーツがあります。それは「テニス」です。ふじみ野のテニスクールに通っています。それだけでは飽きたらず、家の庭にペンキでラインを描き、簡易ネットを置いた手製のコートで、毎日暗くなるまで練習しています。中学時代テニス部だった経験をいかし、私も日曜の朝練につきあっています。まだまだ負けない自信はありますが、日々着実に腕を上げていく息子たちの成長をとても嬉しく思っています。



勝利だけが全てではありませんが、上手くなるために努力する姿はとても素晴らしいものです。黙々と練習をこなして苦手をサーブを克服している長男、試合に負けるとぼろぼろと悔し涙を流す次男、二人とも私に感動を与えてくれます。息子たちががんばりを身近に感じながら、自分もがんばろう！と思います。

このことばをいただいたことでもっとも気持ちよくなり、私の中に「この子を絶対に元気にしてみせる。」という感情が強くなりました。私自身の生きる力も強くなったように思います。



「図書館へ行こう」

つるせ台小学校

本校は、二階調理室隣の階段から鶴瀬西分館に行くことができます。西分館には、身近に感じられる「つるせ台小コーナー」が設置されています。

授業の時間や業間休みを利用し、公共施設のマナーを学びながら、図書室とはちがう本との出会いや楽しさを味わうことができます。

西分館では、パソコンで本

今振り返ってみると、本人が病気になるまで負けないという気持ちを持って、前を向いて過ごしていれば、周りの環境が、必ずよい方向に変わっていくのだと感じています。「生きる力」とは周りのサポートも大切ですが、なにより本人自身の前向きな気持ちの持ちようだと思います。将来、息子が自分の家庭を持ち、子どもを持った時には、ぜひ自分が体験したことを子どもに伝え、生きる力について再度考えてほしいと願っています。

の検索や新聞を開いてリラックスタイムながら読んだり、読みたい本をさがしたりすることができます。

お楽しみの取り組みとしては、低学年のDVD観賞、図書委員対象の夏休み、冬休み職場体験「図書館の仕事をやってみよう！」があります。

これからも、西分館と連携を図りながら児童が本に親しみをもてる取り組みを増やし、



調べる力をはぐくんできたと思います。



朝の歌声公開 ～音楽朝会～

水谷東小学校

水谷東小学校では、音楽朝会を公開しています。各学年が一回ずつ「今月の歌」の発表を担当し、全校児童の前に出て歌います。

今年度の公開は、二年生の「ドレミの歌」からスタート。ドレミファソラシドの音階に合わせてジャンプのウエーブ（波）を起しました。二回目の公開は、一年生の「しあわせなら手をたたこう」。あわせなら手をたたこう。手をたたき、足を踏み鳴らす

音と歌声が体育館中に響き渡りました。大勢の人の前で歌うことは子どもたちを輝かせます。歌う前のドキドキした顔、歌っている時のキラキラした顔、歌い終わって皆から拍手をもらっているときのニコニコした顔、わずか五分の発表ですが、子どもたちにとつては、協力・自信・達成感など多くのことを学ぶ時間となります。これからも、ぜひ大勢



の方々に、子どもたちの輝く姿を見ていただきたいと思えます。

生きる力をはぐくむ～家庭～

勝瀬中学校 保護者 塩田 かをり

思っておせば、小さな産声をあげて誕生した我が家の息子も中学三年生に成長しました。小さく産まれたことで発達が少し遅く、大学病院にも通院し、なんとか幼稚園に入園しました。

その喜びもつかの間、咳が治らず病院を何度も変え、やっとわかった病名は喘息でした。毎夜、咳に苦しみ、母親として何度も自分を責め続け、息子に何がしてあげられるの

かいつも考えていました。その頃、幼稚園が大好きで、どうしてもお休みしたくない息子は、朝、吸入し、帰宅したら夜間も吸入するという生活を送っていました。そんな時「幼稚園はいつでも塩田君の事待ってるよ。何時でもいからおいでね。」と言ってくれたのは園長先生でした。このことばにはとても温かいものを感じ、親子共々救われました。

教育課題特集

はぐくむ

生きる力を

～学校・家庭・地域から～

歯つぴーライフ、始まっています

健康増進センター 保健師 村井 佐恵

虫歯を治療した後や歯科検診を受けた後、「よーし、今度こそは、ちゃんと歯みがきして、定期的に検診も受けるぞ！」と意気込みます。しかし現実には、なかなか……。人は食べることで体を作り活力を得ます。さらに、楽しく食えることや話すことで、多くの幸せや喜びを感じています。自分のケア次第で作ることができます。口から全身へ広げたいものです。

平成二十六年に「富士見市歯と口腔の生涯健康づくり条例」を、さらにその施策を総合的かつ計画的に推進するため、「富士見市歯科口腔保健推進計画」歯つぴーライフ☆ふじみくを策定しました。その取り組みの一つとして、今年度から、健康増進センターで実施している乳幼児健康診査の三歳児でフッ化物塗布が始まりました。

三歳というと、乳歯二十本が、ほぼ全部生えそろう時期。健診に来る大半の子の口の中には、真っ白でかわいい、ピカピカの歯が並んでいます。

中には虫歯で歯が溶けている子もいます。ここ数年、本市の三歳児の虫歯保有数は、県平均と比べると残念ながら多い傾向にあります。小・中学生は、学年が上がるごとに虫歯、未治療者ともに増加している現状があります。

この状況を打破したい、そんな思いで、計画では、ライフステージごとに取り組みたいことをあげています。例えば学齢期。虫歯や歯周病予防のための正しいブラッシング方法を身につけ、習慣づけることが基本。そして、学校の歯科検診で、治療が必要と指摘された場合は早く治療することが大切です。さらに、歯の質を強くしたり、歯の再石灰化を促進する効果が期待できる、フッ化物塗布やフッ化物洗口を継続して実施することも効果的です。

成人期には、定期的な検診と正しいケア習慣・食習慣を大切にしたいものです。長い人生、楽しく豊かに送るため、今できることを始め、続けていきたいですね。



南畑小

おいしい梅ジュースを作ろう!
南畑小の校庭にある梅の木から、毎年沢山の梅の実が採れます。今年もこの実を使って2年生がおいしい梅ジュースを作りました。



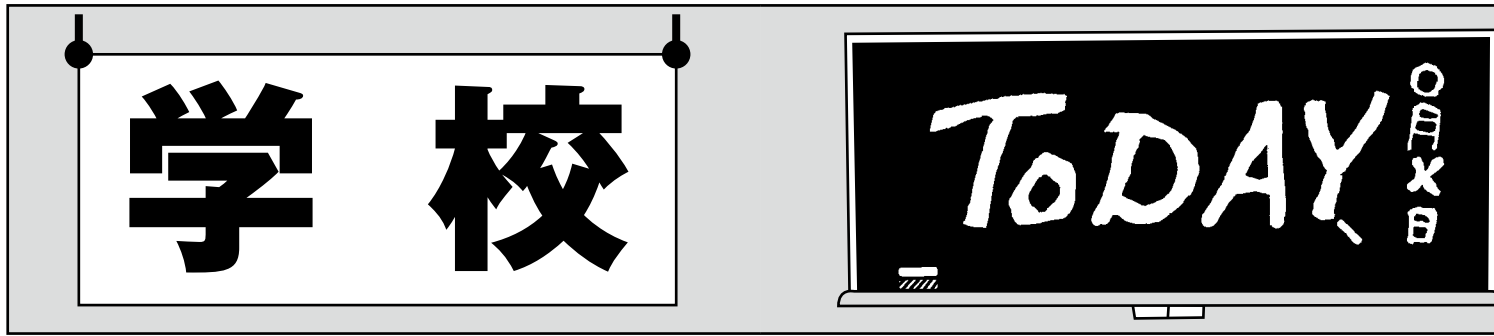
ふじみ野小

笑顔とあいさつがあふれる学校に!
毎週金曜日、代表委員を中心に「にこにこあいさつ運動」を行っています。あいさつの輪が保護者や地域の方にも広がっています。



つるせ台小

「目指せ! ラジ体マスター」週間
運動会に向けて、全校で毎朝ラジオ体操をしました。運動委員会の児童が手本となり、動きのポイントを教えてくれました。



本郷中

「応援合戦」が体育祭を盛りあげました!
本年度の体育祭は3年生のリーダーシップのもと、4つの「団」が熱く躍動しました。5月の空に応援エールが響きわたりました!

2学期が始まりました。各学校では、地域の特色を生かして、たくさん行事が計画されています。様々な行事を通して得た知識や技能は身に付きやすく、印象に深く残り、子どもたちの豊かな心を育成することができます。
特に、各学校で取り組む体験活動では、地域の方のお力をお借りすることも多くなります。ご支援をどうぞよろしくお願いいたします。



鶴瀬小

オレンジリボンでいじめ0に!
鶴瀬小では、「いじめをしない・暴力をふるわない」決意をオレンジリボンで表しています。今日もリボンをつけて、約束を守ります。



水谷中

ひまわりプロジェクト
毎年夏になると、たくさんの「ひまわり」が水谷中学校を囲みます。今年も生徒の植えたひまわりの苗が大きく育ち、生徒の活動を見守ってくれています。



富士見特別支援学校

一人一人の力に応じた水泳指導
中学部の水泳の授業は、実態に応じ4つのグループで取り組んでいます。水に対する不安を感じないように、一人一人に目が届くよう行っています。



富士見台中

「無言清掃」を台中の文化に!
「掃除は創自の時間」と捉え、無言で取り組むことで、いつもとは違う世界が見え、色々なことに気付ける人を育成できると考えています。



水谷小

みんなで楽しむ「わんぱくまつり」
毎年行われている縦割りグループによるおまつりです。6年生のリーダーシップや、お互いを思いやる気持ち、協調性をはぐくんでいます。

II 市教育相談室より II

『教育相談Q&A』

Q 「通級指導教室」ってどんな教室ですか。
A 通級指導教室は、通常の学級に在籍しながら一対一の個別学習を中心として

お子さんの課題に応じた指導を行い、豊かな学校生活を送れるようにするための教室です。
富士見市には、発達障がい・情緒障がいのある子どもたちのための「まなびとこころの教室」と、難聴・言語障がいのある子どもたちのための「きこえとことばの教室」があります。

※通級時は、出席扱いになります。
※通級時の登下校は、保護者の付き添いが原則です。

「まなびとこころの教室」

こんな力をつけることを目指します!

- 体(手・足・目の動きなど)のバランスの力をつけるために、体を大きく、または細かく使う活動を取り入れます。
- 学力の向上のために、覚えることなどの認知的な能力より、不得意を少なくする学習をします。
- 友だちと仲良くなるように、生活の様々な場面をとらえて、コミュニケーションの力をつけます。

子どもたち一人ひとりに、「学び方」のトレーニングなどを行い、お子さんの成長を目指します。

「きこえとことばの教室」

こんな力をつけることができます!

- 自分の思いを気持ちよく、リラックスしながら周りの人に伝える力をつけます。
- 助詞の使い方など、間違いやすい言葉の使い方の学習をします。
- 口の使い方や耳の聞こえの調子(補聴器の使用によるものも含む)をとらえて、正確な発音ができるように練習します。

子どもたち一人ひとりに、「正しい発音」や「ことば」のトレーニングなどを行い、お子さんの成長を目指します。

通級指導教室についてお知りになりたい方は、本室まで直接ご連絡ください。

(問合せ) 富士見市教育相談室

TEL 049-253-5313



教育委員会だより

平成28年度学校総合体育大会 県大会・関東大会・全国大会 結果



(敬称略)



学校名	種目・名前	学年	県大会	関東大会	全国大会
東中学校	男子 バレーボール 野間 敬史、互 絢太郎、笹野 和希、澤田 賢行、橋本 岳人、橋本 拓磨、神宮 明良、井澤 頼哉、清水 傑汰、金子 洵樹、宇佐美 陽平、砂川 裕次郎		1位	2位	3位
	卓球 女子団体戦 小田 菜月、小川 莉奈、只野 亜美、島貴 紗羽、島貴 結衣、阿部 姫乃、鯨津 萌々子、山崎 真優菜		1位	3位	ベスト8
	卓球 女子個人戦 鯨津 萌々子	2年	5位	ベスト16	1回戦敗退
	卓球 女子個人戦 山崎 真優菜	1年	12位	2回戦敗退	
	卓球 女子個人戦 島貴 紗羽	3年	15位	2回戦敗退	
勝瀬中学校	テニス 女子ダブルス 角田 智、橋本 沙耶	1年	5位	2回戦敗退	
	卓球 男子団体戦 石川 福留、麻田 拓海、近藤 駿佑、大代 伸之輔、酸原 真児、渡邊 龍央、福島 匠、狩野 耕助		ベスト4	予選リーグ敗退	
	卓球 男子個人戦 狩野 耕助	1年	12位	3回戦敗退	
	水泳 男子200m平泳ぎ 山口 祐ノ介	3年	10位	予選敗退	
	水泳 女子200m平泳ぎ 佐久間 一実	3年	7位	予選敗退	
	水泳 女子400m個人メドレー 佐久間 一実		6位	5位入賞	
西中学校	水泳 女子100m自由形 松森 小夏	2年	9位	予選敗退	
	水泳 女子200m自由形 松森 小夏		4位	8位	
	水泳 女子100mバタフライ 守友 晃子	1年	7位	9位	
	水泳 女子200m自由形 守友 晃子		7位	4位	



四人のクラス

富士見特別支援学校教諭 新井 孝之



「○○ちゃんがこんなに頑張っているんだから、ぼくも頑張ってみようよ。」
特別支援学校に勤務するようになって早三ヶ月。まさか

友だちを意識した、こんな言葉が聞かれるとは……。
今まで自分は、いかに子どもの実態を把握し、どのよう

に一人一人を指導するのかわか

けを考えていた。だがそこに
現在担任しているクラスは、
た○○くんもすごいと思うよ。」
「うん。ぼくはみんなのこ

とが好きだから、○○くんにも頑張るように言うよ。」
している子がいた。そういえば、教師となかなか手を繋ぎ

編集日記

今年の夏は、オリンピック・パラリンピックの観戦や報道に、心躍らせた方も多かったのではないだろうか。いよいよ次の開催は、東京だ。

東京大会のエンブレムには、「多様性と調和」のメッセージが込められている。形の異なる四角形は、国や文化・思想等の違いを示す。違いはあってもそれらを超えてつながり合うデザインは、オリンピック・パラリンピックが多様性を認め合い、つながる世界を目指す場であることを表している。互いに認め合い、支え合いながら、ひとつになる時がやってくるということ

を伝えていくそう。

さて、江戸時代に生まれた「江戸しぐさ」は、様々な人たちがお互いに仲よく平和に暮らしていくために行っていた「商人しぐさ」が元になっているという。傘をさした人同士が、相手をぬらさないように、互いの傘を傾ける「かさかしげ」等、人々が互いに気持ちよく暮らしていくための知恵がこめられている。

エンブレムに込められた「調和」の心、「江戸しぐさ」のような真心をもつて接する態度を、学校・家庭・地域がつながりながらともに育てていきたい。

学びあい、人がつながり一人ひとりが輝く、富士見の教育をめざして

(森田)